

滋賀県大津市

サーキュラーエコノミーシステムにより世界的な廃プラスチックの課題を解決

収益の軸は、プラスチックリサイクル最適化を提案するコンサルティング事業。世界の17か国と取引を交わし、日本国内には33か所の回収拠点、48か所の委託加工工場がある。同社は、企業内で発生する廃棄物のリサイクルフロー可視化提案を推進しており、排出企業は同社製品のサーキュラーエコノミーシステム（追跡システム）は、廃棄物の最終的な行方まで確認可能となっている。

●所在地	滋賀県大津市瀬田4丁目5番8号	●設立	1996年
●電話/FAX	077-543-6625/077-543-6685	●資本金	1,000万円
●URL	https://www.pantechco.jp/	●従業員数	36名
●代表者	代表取締役 黒木 正明		



需要獲得

新装置・新システムの開発による付加価値向上を実現

廃プラスチックは世界的な課題だが、廃棄物の品質・性状は一律でないことが市場の拡大を阻害している。また、リサイクル業取引の透明性確保も課題である。当社は、装置開発も含めた多様な品質の材への対応技術力向上と、企業が排出品の状況を確認できる新しい追跡システムを開発することで、これらの課題に対応するとともに付加価値の向上につなげている。このような活動を通じて信頼性の高い事業ネットワークを形成しており、10年で年商約3倍を実現。



サーキュラーエコノミーシステム

サービス

外国籍社員に支えられた海外展開と全員参加型の経営

創業者は欧州を始め海外業務経験が豊富であり、排出地域、加工地域、再生品の消費地域の三国間トレーディングを得意事業の一つとしている。海外展開に積極的に取り組み、現在では外国籍の社員6名を擁し、世界17か国でリサイクル事業を行う。この多地域での事業展開が、安定した経営基盤を形成している。多様な社員全員の成長を実現するため、全員参加型の経営スタイルを徹底。グループ毎の採算経営を進め、全員が日々の売上・在庫等の情報を共有し、能動的に考えアクションを起こすスタイルで事業拡大に取り組んでいる。



海外拠点会議の様子

パンテック流「三方良しの法則」で地域経済にも貢献

同社は、より高付加価値なコンサルティング業務に軸足を移してきた経緯のなかで、全国に処理事業を請け負う協力企業を持っている。同社のビジネスが拡大し、社会への環境負荷が低減すれば、排出企業への貢献にもつながり、同時に協力会社を通じて地元地域にも波及効果がおよぶ。また離職の少ない良質な雇用が創出されることでも地域経済に貢献している。



パンテック流「三方良しの法則」